広報 九州

平成28年10月10日
（2016年）

No　1736

九州森林管理局
〒860-0081
熊本市西区京町本丁2－7
IP電話：050-3160-6600（代表）
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/

ナイストライ事業を受け入れ

～中学2年生5人が職場体験学習～

9月13日から15日にかけて、熊本市立京陵中学校からの依頼により、中学2年生5人を受け入れ、ナイストライ事業（職場体験学習）を実施しました。

ナイストライ事業は、実際の職場において学習する経験がほとんどない生徒たちに対し、様々な体験活動をとおして、子どもの勤労観・職業観や感謝する心などの豊かな心をはぐくみ、子どもたちの「生きる力」を育てる事を趣旨として、毎年実施されているものです。

九州森林管理局では、3日間の限られた時間の中で、現場での業務や広報の仕事などを生徒たちに体験してもらいました。

京陵中2年生の皆さん

1日目は、松永眞弥総務課長補佐より、九州森林管理局の組織や業務内容について説明を受けた後、広報業務として「今日の新聞から」に使用する新聞記事の切り抜き、広報誌の発送業務を行いました。

午後からは、企画調整課宮木利浩企画官より、現場実習で使用するGPSの使い方について説明を受けました。

GPSを使うのは初めての生徒たちでしたが、宮木企画官からの丁寧な説明を受け、使い方を習得していました。

GPSの使い方を学びました

2日目は、熊本森林管理署管内の大野国有林において、GPSを活用した巡検業務を行いました。

先日習ったGPSを使った現場での実習ということで、生徒たちは張り切っていましたが、天候が良くなかったため、境界標の確認を5箇所から2箇所に縮小したことから、「もっと使ってみたかった」と残念がる生徒もいました。

現場実習の様子

3日目は、3日間の体験学習での感想を取りまとめた、広報誌「京陵中ナイストライ」の作成を行いました。

生徒たちは、慣れないパソコンへのデータ入力作業や誌面の構成、使用する写真の選定に四苦八苦していました。また、作成途中でデータを消してしまうハプニングもあったことから、時間内での完成が危ぶまれましたが、なんとか時間内に作業が終わり、生徒たちも安堵の表情で3日目を終了しました。

広報誌を作成中

3日間という短い時間の中での職場体験でしたが、後日送付されたお礼状には「この経験を活かしていきたい」「自然の大切さに気がつきました」などの感想があり、生徒たちの「生きる力」を育てる一助になればと願いつつ、職場体験学習を終えました。

（担当＝総務課）

3日間の成果が詰まった広報誌

国有林材供給調整検討委員会を開催

「現状では供給調整を行うことは要しないとの結果」

9月15日、本年度2回目の「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。

委員会では、各委員がそれぞれの専門分野からの意見を述べあい、「現状では供給調整を行うことは要しない」との結果になりました。

各委員からの意見は次のとおりです。

○原木は梅雨時期を通して安定的に供給出来ている。山側に価格情報が行き渡っており、出材も多い。原木輸送用のトラックが不足しており、今後、ストックヤードの利用など効率的な輸送方法を考えていく必要がある。

○原木の価格は虫害や輸出低迷から下がっているが、出材されたものは全て消費されており、国有林材の供給調整は必要ない。伐採、搬出作業は高性能林業機械の導入により若い人が増えてきているが、造林や下刈りの人材が不足しており、人材確保がこれからの課題。

○供給調整は必要ないが、これまで木材価格の下支えとなってきた燃料用チップの動向が懸念される。発電所から入荷制限がかかっており、場合によっては原木価格に影響が出る可能性もある。なお、システム販売材が計画通りに供給されていない状況にある。計画に沿ってその後の販売先や数量を決定していることから、今後は、協定数量の精度向上や情報の共有を徹底して欲しい。

○製品については梅雨明けから動きが出てきている。住宅着工は順調だが大工不足が深刻な状況で、今後影響が出てくるのではないか。原木価格、製品価格ともに安定しており、供給調整の必要はない。

○原木市場への出荷が増えていないが、これは山元からの直納のほか、市場から大型製材工場への直納も増えているからで、市場の体質変化がうかがえる。製品は梅雨明けから売り上げが回復しており、供給調整については、市場への供給が少ない状況ではあるが問題はない。

○全国的に合板が不足しており、昨年より1割増の生産量だが、在庫が少ないためフル操業が続いている。原木の入荷も順調であり、国有林材の供給調整の必要はない。

○製紙用チップは、紙の値段が下がっていることに加えて、円高により外材チップ価格が低下しており、国産材チップに逆風が吹いている状況にある。素材生産は順調であり、供給調整の必要はない。

などの意見が出されました。

（担当＝地域木材情報分析官）

挨拶する池田局長

委員会の模様

振興局と意見交換会

【宮崎南部森林管理署】南那珂農林振興局と当署が連携し、地域林業の成長産業化を推進していくための現地検討会と意見交換会を開きました。

はじめに、振興局からの提案で、当署管内に森林技術・支援センターが設置している、エリートツリーやコンテナ苗、低密度植栽試験地において現地検討会を行い、エリートツリーやコンテナ苗の生育状況、植栽密度などについて意見を交わしました。

その後、当署会議室に移動し、事前に双方から出されていた「おが粉不足」や「安定的な苗木の生産」「主伐・再造林を推進していく中での素材生産等の林業事業体の育成」「低コスト林業へ向けた一貫作業システムの推進」など、地域の森林・林業の課題について意見交換会を行いました。

意見交換会では、当署から事業ベースでの一貫作業の実施状況や、おが粉生産のための原木の供給、穂木の供給などそれぞれの課題に対し、国有林の対応を説明しました。

次に、国有林でも喫緊の課題となっている、素材生産などの林業事業体の育成・確保に向けた、事業体の強化・支援や人材育成に対し、宮崎県や振興局がどのよう取り組んでいるのかなど、国と県がそれぞれの立場で地域林業の成長産業化について、活発に議論を交わしました。

最後に、今後も日常的に地域の課題や対策などについて情報を共有し、連携して取り組むことを確認して、意見交換会を終了しました。

現地検討会の模様

意見交換会の模様

山の日まつりへ参加

【沖縄森林管理署】8月11日、祝日「山の日」の制定記念として、山の日まつりが恩納村の県民の森で開かれました。

イベントでは、森林散策体験や木工クラフト体験、きのこミニ講座&もぎ取り体験、森の学習会、パークゴルフ大会が行われ、本署からは、森林パネル展及び森林クイズを実施し、多くの来場者で賑わいました。

参加者は、パネルを一生懸命見ながら、真剣な表情でクイズに取り組み、採点後には子どもたちの喜ぶ姿や、悔しがっている姿を見ることができ、たくさんの方に森林の役割と重要さを知っていただくことができました。

クイズに挑戦する親子

「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」1日となり、とても良いイベントとなりました。

秋のパトロールを開始

【大分西部森林管理署】年間60万人が訪れるといわれる、くじゅう高原に秋を感じる風が吹く季節となりました。

大分署と大分西部署が管理する、くじゅう連山一帯では、自生する貴重な高山植物の保護と入林者のマナー向上を目的に、春と秋の行楽シーズンに合わせて森林保護員（グリーン・サポート・スタッフ）による森林パトロールを実施しており、紅葉が始まるこの時期に秋のパトロールを開始しました。

九重町長者原において開催した合同出発式では、川畑宏二大分森林管理署長から激励の挨拶の後、総勢12人の森林保護員を任命しました。

今年度の巡視は、10月中を目途に約2ヶ月間行い、期間中は訪れる皆様の無事故と、多くの満足を得てもらえるよう森林保護員の活躍が期待されます。

パトロールの様子

モニターの声

大坪　尚希さん

森林大国ならではの魅力ある森林づくりを

この場をお借りして日本の森林づくりについて思うことを書きたいと思います。

我が国日本はフィンランドに次ぐ森林大国ですが、国民の、とりわけ若年層の森林に対する意識が残念ながら低いと感じます。その原因は、きっと森林の魅力に気づけていないからだと思います。これには、荒れた暗い森がかなり広がっていることも少なからず関連性があると思います。明るく、楽しく学べ、しかも気軽に足を運びたくなるような森林がとても少ないのです。ここに、現代日本が抱える森林や林業に携わる若い担い手不足の問題が原因の一端として隠れているのではないかとも考えます。

ドイツでは身近に親しめる整備された森林が多くあり、森林官が森の先生となって活躍しているようです。子どもたちは彼らから森林の事について楽しく学ぶことができます。そして、子どもたちは森林官に憧れを持ちます。これは自然的に森林について興味や関心が湧くことにつながります。日本において、これと似たようなことができないか。そこで期待するものが、森林空間利用タイプの国有林です。明るく、楽しく学べる森林づくりとして国有林を活用するのです。まずはレクリエーションの場から、そして多目的に発展させていくのです。

ここでもうひとつ、「かっこよさ」をうまく取り入れてはどうでしょうか。例えば林業においては、伐木の大迫力さがあったり、使う道具類やスマートなデザインの安全防護具などからのショウアピールがあります。アイデア次第では、林業は若い世代を森林の魅力に引き込む格好の場となるのではないかと感じるのですが・・・。

近年では森林の保健的意義も大きくなっており、セラピー効果を体感できるリラクゼーションの場としても注目されてきているようです。こういったものを何か面白く、魅力的な森林づくりに仕掛けられないか、そして国有林を使って、森林と携わる人に憧れを持てる環境づくりができないか。

長い歴史からみても日本人は根源的に木や森が好きだと思います。きっかけがあれば、きっと、みんな森の魅力に気づくはずです。

（大分県日出町在住）

芦北高校2年生が林業実践体験研修

熊本県から地域林業実践体験推進事業の委託を受けた、水俣芦北森林組合からの依頼により、熊本県立芦北高等学校林業科2年生7人を対象に林業実践体験研修を行いました。

今回は、監物台樹木園が熊本地震の被害を受け使用できなかった事から、局会議室において、中村道人次長、迫口親保全課長からの講義を実施しました。

まず最初に、迫口課長から、九州森林管理局の概要や林野庁の組織内容、近年の採用状況、職場の状況などについて講義がありました。

講義の合間には、芦北高校のブログや近年の取り組みなども織り交ぜながら、自身の経験も含めた講義に、生徒たちは熱心に聞き入っていました。

迫口保全課長の講義

中村次長の講義

次に、中村次長より、新たな森林・林業基本計画のポイントや展開方向について、講義がありました。

講義では、新たな森林・林業基本計画による施策の展開方向について、林業・木材産業の情勢や課題、それに対する政策的な対応方向、国産材需要の拡大に向けた取り組み状況など、ポイントとして、新たな木材需要の創出や造林・生産コストの低減などについて、事例を含めて分かりやすく講義がありました。

講義を受けた生徒たちは、熱心に話を聞きながらメモを取るなど、森林・林業への関心の高さがうかがえました。

この研修生から、将来の国有林野職員が出てくることを期待しながら、研修を終了しました。

（担当＝総務課）

乙益氏を講師に自然観察会

【熊本南部森林管理署】人吉市矢岳町の大畑国有林周辺において、当署主催、球磨地域振興局共催による、山の日制定記念行事として、自然観察会を開きました。

当日は、環境省希少野生動植物種保存推進員の乙益正隆氏を講師に迎え、約20人の一般参加があり、乙益先生のエピソードを交えた植物の話や、薬草としての働きなど幅広い知識に基づいた説明に、熱心に耳を傾けていました。

自然観察会の様子

炎天下の中ではありましたが、参加者は、下界との温度差を感じながら、森の恵みアケビの果実に大喜びしたりと、楽しいひとときを満喫していました。

最後に先生への質問タイムでは、専門的な質問が多く、参加者のレベルの高さにも驚かされた一日となりました。

緊急安全懇談会を開く

【宮崎森林管理署】8月29日、当署会議室において、伐採・造林業務に従事する、請負事業体などの事業主を対象に、緊急安全懇談会を開きました。

ここ数年、全国的に請負事業体などの労働災害が増加傾向にある中、当署における労働災害件数は2015年度3件（うち重大災害1件）、16年度（8月末現在）は2件発生、この外にも一歩間違えれば重大災害につながりかねない危険な事例（ヒヤリ）も2件発生しているところです。

当署では、林業労働災害の連鎖を断ちきるために、緊急に安全懇談会を企画し、請負事業体などに参加要請したところ、16社22人の参加者がありました。

冒頭、鈴木正勝署長から「労働災害の減少に歯止めが掛かっていない。危機感を持っている」旨の挨拶があり、引き続き、過去の災害事例を検証・分析し類似災害を防止するため、

①宮崎署における災害等の現状
②平成28年度局管内請負事業体等における災害発生状況
③熱中症対策について
④災害ゼロを実現するために

の4点について意見交換を行いました。

災害が多発している事態の深刻さから、参加者のゼロ災に向けて取り組む姿勢や、緊張感が伝わってくる安全懇談会となりました。

最後に、安全を祈念して、請負事業体等の代表者による安全唱和「ゼロ災でいこうよし！」で締めくくり、災害ゼロの決意を新たにしました。

16社が参加した緊急安全懇談会

人のうごき

☆10月1日付林野庁長官発令
林野庁国有林野部業務課企画官（災害対策担当）九州局計画保全部併任（九州局駐在）
春日　智【東北局宮城北部森林管理署長】
計画保全部野生鳥獣管理指導官
沼津浩明【計画課企画官（森林資源評価担当）】

☆10月1日付森林管理局長発令
計画課企画官（森林資源評価担当）
松永雄治【熊本署総括森林整備官】
西表森林生態系保全センター生態系管理指導官（計画課）
田中和利【森林技術・支援センター森林技術専門官】
計画課経営計画官
竹部浩一郎【屋久島森林生態系保全センター専門官】
森林技術・支援センター森林技術専門官
梶丸正幸【大隅署首席森林官】
熊本署総括森林整備官
松本輝生【計画課経営計画官】
宮崎署都城支署地域技術官
野田秀治【保全課】
大隅署首席森林官
福岡忠行【西都児湯署森林技術指導官】

◇退職◇ご苦労さまでした

◇定員内職員◇
☆9月30日付森林管理局長発令
田上正文（計画課）
（担当＝総務課）

シカ被害対策協定を締結

【西都児湯森林管理署】8月31日、児湯郡木城町の木城町役場において、国・県・町・地元団体の4者による、「シカ被害対策協定書」の調印式を行いました。

これまでのシカ被害対策は、国有林・民有林のそれぞれが、各々のエリア内において実施しており、民有林では自己の農地内を獣害防止ネット等により守っている、いわゆる防御主体の被害対策を行っていたところです。

今回この状況を打破するための施策として、西都児湯森林管理署（国）児湯農林振興局（県）木城町（町）駄留地区鳥獣被害対策協議会（地元団体）の4者による協定を締結し、横断的なシカの捕獲、地元農山村による地域おこし、里山環境の健全化が行えるようになりました。

この協定では、国はシカの捕獲に使用する「くくりわな」を100基と「はこわな」2基の無償貸与を行い、県・町は、適正頭数の管理を行う為の情報提供・被害対策の支援・技術指導などのバックアップを行い、地元（農林家）の住民が自ら捕獲を行うこととなっています。

4者による「シカ被害対策協定」の締結は、九州森林管理局管内では初めてのことで、マスメディアを通じた大々的な報道がなされ、被害対策のPRにも繋がりました。

調印式後のインタビューでは、地元農村区の代表である駄留地区鳥獣被害対策協議会の平木会長から「これから駄留地区内が色々な活動を行うことで活気づき、未然に山林から農地へ被害をもたらすシカなどを捕獲できる。これが直接的に農村産物の被害低減につながり、地区の住民が駄留地区に住んでいて良かったなと思える環境になっていってくれると嬉しい」と述べられました。

西都児湯森林管理署では、次に西都市との協定の締結も考えており、今回の協定を起点として、他の地域でも国・県・町・地元団体4者での取り組みを広げていき、シカの適正頭数への誘導、多種多様な植生回復による国土保全機能の向上、地元農山村の活性化を推進していきます。

調印式を終えた4者

屋久島の森林2016開催

【屋久島森林生態系保全センター】
8月21日、鹿児島県屋久島町の白谷雲水峡において、林野庁主催、屋久島町・屋久島レクリエーションの森保護管理協議会共催による「屋久島の森林2016」が開かれました。

本イベントは、国民の祝日「山の日」の記念として、また、レクリエーションの森として親しまれている屋久島自然休養林と、屋久島世界自然遺産地域の保全・保護の紹介を目的として実施したものです。

今回のイベントには、2016年ミス日本みどりの女神飯塚帆南さんをはじめ、親子連れなど75人が参加しました。

参加者は、8グループに分かれ、みどりの女神と一緒に屋久島固有の植物などを自然観察しながら、苔むす森や太鼓岩までの登山を楽しみ、屋久島の豊かな自然を満喫した一日となりました。

ミス日本みどりの女神と

参加者全員で記念撮影

防災訓練の実施及び緊急自然災害対策本部を解散

災害対応では、日頃からの備えが重要であることから、九州森林管理局防災業務計画などに基づき、非常参集体制の整備、防災意識の高揚など危機管理体制の整備を図ることを目的とし、9月1日に局の防災訓練を行いました。

本年4月に発生した「平成28年熊本地震」と同じく、熊本市で震度6強の地震が発生したとの想定のもと、本部設置、安否確認などの訓練を行い、訓練の終わりにあたっては、本部において、平成28年熊本地震における、初動対応の状況及び問題点についての振り返りを実施し、今回の地震で経験したことを取りまとめ、今後の災害対応に活かすことを確認しました。

また、「熊本県災害対策本部」が8月30日に解散したことを受け、「九州森林管理局緊急自然災害対策本部」については9月1日をもって解散することとし、引き続き「平成28年熊本地震復興推進本部」として地震被害からの早期の復旧・復興について取り組むこととしています。

（担当＝企画調整課）

対策本部の看板を下ろす局長と次長

大学生に西表島を説明

【西表森林生態系保全センター】

当センターでは、東海大学の依頼を受け、9月10日に、学生26人（外引率教授2人）を西表島亜熱帯樹木展示林及び隣接するマングローブ林内の木道に案内し、西表島の植物などについて説明を行いました。

学生達は北海道キャンパスからの来島だったことから、西表島特有の蒸し暑さの洗礼は、中々厳しかったようでした、それでも、生物学科の学生らしく熱心に展示林やマングローブ林内の動植物を観察していました。

特に、天然記念物「ヤエヤマセマルハコガメ」との遭遇には感激度が高かったようでした。

井上所長の説明を聞く大学生

都会の中の憩いの森

監物台樹木園の多様な植物

⑦ヤマボウシ（ミズキ科）

山に普通に生えている落葉（亜）高木で、標高1000㍍前後の天然林で、霧が白く煙るなかに白い花が浮かび幽玄の世界に浸ることができます。（九千部岳、九千部山が有名）

樹木がある程度大きく（胸高直径10㌢前後）なると樹皮が点々と剥がれ落ちて縞模様になります。花がない時の同定の目安になります。

葉はルーペで観察して、葉の表裏の圧毛、裏面の脈腋に黄褐色の刺毛を確認しましょう。

花は短枝の先に頭状花序を作り、花弁に見えるのは苞が変化したものです。花は苞の中に小さな花がたくさんあり、花弁4枚、雄しべ4個、花柱は1本の構成となっています。

果実は合生して球形の集合果となり、秋に熟し食べると美味しいです。

果実を食べる要領は、木を揺すって落ちてきた果実が熟していることを確認、虫が食べていないかを調べることです。

名前は、頭状花序を比叡山の僧兵の頭と、広い苞を白い頭巾に見立ててつけられています。

みどりの散歩路

4月の熊本地震から半年が過ぎようとしています▼先日、被害の大きかった益城町を車で通ることがあり、地震被害からの復旧状況を見ることが出来ましたが、まだまだです▼道路は波打った状態で、全壊・半壊の住宅はそのままの姿でそこにありました▼最近ではメディアで取り上げられる事も少なくなり、被害の現状をあまり目にすることがなかったため、建物の解体・撤去など、ある程度復旧が進んでいるのではと思っていたのですが、まだまだです▼地震や津波など大きな災害からの復旧・復興には、本当に長い時間が必要なことを痛感させられました▼本誌にも掲載されていますが、九州森林管理局では、地震直後に設置された「緊急自然災害対策本部」を解散、引き続き「平成28年熊本地震復興推進本部」として、復旧・復興に取り組むこととしています▼これからの道のりは長いものになるかと思われますが、一日でも早く復旧・復興を迎え、「復興推進本部」の解散を笑顔で迎えられる日が来ることを願っています。

（て）